

米国で収集したトルコギキョウ野生種の特性

兒玉 泰・諸富保司・藤原博文¹⁾

(大分県温泉熱花き研究指導センター・¹⁾大分県農政部)

Yasushi KODAMA, Yasushi MOROTOMI and Hirofumi FUJIWARA :
Characters of Wild Species of *Eustoma* Collected in U.S.A.

大分県の早生品種を用いた11～12月採花の二度切り作型では、高温ロゼットの回避とボリュームや草丈の確保が課題となっている。これらを解決し、大分県の産地イメージを強く印象づけるようなオリジナル品種の作出が望まれているため、1994年にアメリカ合衆国で収集した野生種の開花特性や形態、ロゼット性の強弱について調査を行い、育苗親としての特性を検討した。

1. 材料および方法

1994年に米国で収集した野生種15系統を供試し、各々番号を付した。対照は早生品種の‘あずまの波’とした。288穴のセル成型トレイに育苗用土の与作N-50を詰め、1997年4月22日、5月22日、6月23日、7月22日、8月22日に播種した。定植はそれぞれ6月23日、7月9日、10月7日、10月7日、11月10日に行った。なお、6月播種分は育苗中の高温のため葉が枯死し、再度展葉したものを定植したため7月播種と定植日が同じになった。定植は所内ガラス温室で、栽植密度は株間、条間とも12cmの7条植えとし、施肥は全量基肥で、N:P₂O₅:K₂O=2:2:2kg/aとなるように施用した。なお、形質調査は4、5月播種分についてのみ行った。

2. 結果および考察

採花日が対照品種より早かった系統は、4月播種ではNo.2, 3, 5, 6, 7, 8, 11で5月播種ではNo.1, 2, 3, 6, 7, 8, 11, 12, 14であった。遅かった系統は、4月播種ではNo.1, 4, 9, 10, 12, 13で、5月播種ではNo.4, 5, 9, 10, 13であった。また、切花長が80cm以上あった系統は、両播種期ともNo.9, 10, 13であった。

分枝数が多かった系統は、4月播種ではNo.4, 5, 7, 10で、5月播種ではNo.4, 10であった。また、花蕾数が多かった系統は、4月播種ではNo.2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12で、5月播種では4, 9, 10であった(第1表, 第2表)。

対照品種は、播種時期が高温になるにつれロゼット株の発生が多くなり、6, 7, 8月播種ではすべてロゼット化した。野生種では6月播種でロゼット株の発生が多みられたが、割合は対照品種に比べ少なかった。特にNo.2, 3, 5, 6, 10は4～8月播種のいずれもロゼットにならなかった(第3表)。

以上の結果、当所保有の野生種は高温期の厳しい栽培条件でも開花期の早晚、花蕾数の多さ、耐高温ロゼット性などの多様な有望形質を有しているため、大分県の気象条件や作型にあったオリジナル品種の育成にあたり、育種親として有望であることが示唆された。

第1表 野生種の諸形質 (4月22日播種)

供試系統 (品種)	採花日 (月/日)	切花長 (cm)	分枝数 (本)	開花数 (輪)	着蕾数 (個)	古花数 (個)	花蕾数 (個)	備考
No1	9/28	54.7	1.5	1.5	0.9	2.6	4.9	紫色小輪
No2	9/18	65.4	2.1	1.4	0.8	4.4	6.6	〃
No3	9/17	60.6	2.0	1.8	0.7	3.7	6.1	〃
No4	9/26	78.5	3.0	3.5	2.9	1.7	8.0	〃
No5	9/23	77.2	3.5	2.7	3.0	3.6	9.3	〃
No6	9/17	66.1	2.7	0.9	0.5	6.7	8.1	〃
No7	9/23	70.8	3.0	2.6	1.1	5.3	9.0	〃
No8	9/21	63.0	2.6	1.2	0.9	2.6	4.7	〃
No9	10/25	108.0	2.8	1.9	2.2	2.0	6.1	白色小輪
No10	9/28	89.1	3.1	1.8	1.6	3.5	6.8	紫色小輪
No11	9/20	65.0	2.1	1.3	1.3	5.4	8.0	〃
No12	9/27	67.5	2.0	1.7	0.9	4.9	7.6	〃
No13	10/19	82.9	1.4	0.7	0.6	1.7	2.9	〃
No14	9/24	68.6	1.8	0.6	0.6	4.0	5.2	〃
No15	9/24	57.6	1.9	0.5	0.3	4.5	5.3	〃
あずまの波	9/24	50.0	1.9	2.4	0.4	2.2	5.1	紫色種輪

注) a) No.1～15は1994年に米国で収集した野生種の系統
b) 茎さは先端から50cmの部分で水平に保った時の先端部の最大下垂度
c) 花蕾数=開花数+着蕾数+古花数

第2表 野生種の諸形質 (5月22日播種)

供試系統 (品種)	採花日 (月/日)	切花長 (cm)	分枝数 (本)	開花数 (輪)	着蕾数 (個)	古花数 (個)	花蕾数 (個)	備考
No1	10/7	55.9	1.6	1.5	0.7	2.4	4.5	紫色小輪
No2	10/6	59.3	1.7	0.4	0.1	3.8	4.2	〃
No3	10/6	62.6	1.8	0.7	0.1	3.1	3.9	〃
No4	10/18	77.9	3.3	2.7	1.8	2.2	6.6	〃
No5	10/24	57.4	1.9	1.7	2.2	1.2	5.1	〃
No6	10/7	60.2	2.3	0.5	0.3	5.0	5.7	〃
No7	10/7	59.6	2.5	1.8	0.4	3.5	5.6	〃
No8	10/7	60.0	2.0	0.9	0.3	2.8	4.0	〃
No9	12/9	105.7	2.2	2.6	1.7	2.8	7.0	白色小輪
No10	10/22	90.6	3.1	2.5	1.9	2.5	6.9	紫色小輪
No11	10/8	59.1	1.5	0.6	0.7	4.3	5.5	〃
No12	10/9	60.8	1.5	1.1	0.4	2.8	4.2	〃
No13	11/1	84.5	1.2	1.0	0.5	1.3	2.8	〃
No14	10/7	62.6	1.3	0.6	0.5	2.5	3.6	〃
No15	10/11	46.0	1.1	0.4	0.1	1.5	2.0	〃
あずまの波	10/11	31.4	0.4	0.5	0.0	0.8	1.3	紫色種輪

注) a) No.1～15は1994年に米国で収集した野生種の系統
b) 茎さは先端から50cmの部分で水平に保った時の先端部の最大下垂度
c) 花蕾数=開花数+着蕾数+古花数

第3表 播種時期別の高温ロゼット発生株率

供試系統 (品種)	播 種 日				
	4月22日	5月22日	6月23日	7月22日	8月22日
No1	0.0(21)	0.0(25)	7.1(28)	0.0(28)	0.0(25)
No2	0.0(28)	0.0(21)	0.0(28)	0.0(28)	0.0(21)
No3	0.0(27)	0.0(28)	0.0(28)	0.0(28)	0.0(28)
No4	0.0(25)	0.0(26)	28.6(28)	14.3(28)	0.0(26)
No5	0.0(28)	0.0(28)	0.0(26)	0.0(28)	0.0(28)
No6	0.0(21)	0.0(28)	0.0(28)	0.0(28)	0.0(28)
No7	0.0(27)	0.0(28)	7.1(28)	0.0(28)	0.0(28)
No8	0.0(16)	0.0(28)	6.3(16)	0.0(28)	0.0(28)
No9	0.0(27)	0.0(27)	10.7(28)	0.0(28)	0.0(27)
No10	0.0(25)	0.0(28)	0.0(28)	0.0(28)	0.0(28)
No11	0.0(28)	0.0(28)	14.3(28)	0.0(28)	0.0(28)
No12	33.3(27)	28.6(28)	28.6(28)	21.4(28)	0.0(28)
No13	4.2(24)	0.0(25)	3.6(28)	0.0(28)	0.0(25)
No14	0.0(26)	0.0(27)	3.7(27)	7.1(28)	0.0(27)
No15	16.7(18)	30.0(20)	89.3(28)	39.3(28)	30.8(20)
あずまの波	32.0(25)	71.4(28)	100.0(7)	100.0(28)	100.0(28)

注) a) No.1～15は1994年に米国で収集した野生種の系統
b) 単位は% ()は調査株数